

## 平成23年度動物慰霊式

科学分析支援センター 畠山 晋

平成23年度埼玉大学実験動物慰霊式が10月11日(火)14時40分から理学部2号館第一会議室において行われました。主催は埼玉大学、動物飼育室の維持管理業務を行なっている科学分析支援センターが式の次第を取り仕切りました。教育および研究の目的で実験動物を使用している方々、総合研究機構に属する教職員、そして動物の御霊に感謝し安らかな眠りを祈りたいという方々、合わせて85名の参加者がありました。

式は、畠山晋講師(科学分析支援センター、埼玉大学動物実験委員会委員)の開式のことばによって開かれ、小林哲也教授(埼玉大学動物実験委員会委員長)のあいさつがありました。動物愛護法の見直しを迎え、動物実験を実際に行なっている我々は、改めて動物愛護について深く考え、実験の犠牲になった動物に対して深い敬意を払うべきであると述べ、あいさつを終えました。続いて動物飼育室の利用者を代表して大倉正道准教授(脳科学融合研究センター)より慰霊のことばが捧げられました。犠牲になった実験動物の御霊に報いるためにも、今後も動物実験規則ならびに動物実験に関する3Rの原則、すなわち代替法の利用、使用数の削減、および苦痛の軽減に基づいた、適正な動物の飼養、保管、実験の実施に努め、実験動物の尊い犠牲の上に得られた貴重な情報を、社会に貢献できる成果として発表し、還元することに務めることが、動物の御霊にとって最大の供養になると信じます、と述べられました。次に参加者全員によって花が捧げられ、黙祷することによって、参席の方々が実験動物の御霊に対する感謝の気持ちと安らかな眠りを祈りました。最後に石井昭彦・科学分析支援センター長のことばによって式が閉じられました。実験動物を扱っている教職員・学生は、動物実験の意味と意義を深く考えた上で、実験に供される動物に対する畏敬の念を持つとともに、最大の効果を上げられるように実験手技の向上に努めなければならないという思いを新たにしました。

今回の慰霊式から、動物慰霊牌が献花台に置かれました。慰霊牌を設置することが必ずしも重要であるとは言えませんが、少しでも実験の犠牲になる動物のことを考える一助になれば幸いです。埼玉大学の動物実験に関する整備はまだまだ途上ですが、実際に動物実験を行なう方々の意識が伴うことが重要です。これからも、動物実験委員会、そして動物実験実施者の皆さんと、動物実験がより良い環境で行なわれて、埼玉大学から優れた成果が発信できるように、引き続き努力を重ねたいと感じています。